

2つの勇気！



3月1日(月)、今年度最後の全校朝会の内容は、2つの勇気について。その2つとは、

「する勇気」と「しない勇気」

「する勇気」は、文字通り、困難に立ち向かい挑戦する勇気。それがあつたからこそ人間は成長できる。



「しない勇気」。例えば、登山家が、もう少しで登頂という直前で命を守る選択を行い、登頂を断念し下山するというようなこと。このことをみな

さんの生活で考えてみましょう。

例えば、友達の悪口を言ったりルールを守らなかつたりする人がいたとしましょう。その友達から「お前もやれよ…」と言われても、断る勇気です。つまり、悪いことに誘われても、「しない勇気」をもたなくてはなりません。(中略)

正しいことをきちんとやっている人が褒められ、認められる、そんな千代田西部小を創っていきましょう。それが本当の「かっこよさ」なのですから。

誰かのために生きる！

震える指 ～ある雑誌より～

中2の秋、受験のために初めて親元を離れた。下宿屋を営む祖母の家で、四畳半にコタツが一つ。心細さばかりが身にしみた。

祖母と同居していたのは父の長兄で、私にとっては伯父にあたる。彼は幼い頃小児まひを患って以来、手足が不自由で言葉も満足に話すことができない。意思が伝わらないもどかしさに苛立ち、たびたび大声を出していたが、私には決して怒らなかつた。

伯父は新聞配達をされていて、真夜中から起き出す。勉強疲れでぼやけた頭にひきずるような足音が響いてくると、ああ、今、午前3時かとわかるほどだった。

(右上に続く)

ある日、掃除をしようと伯父の部屋に入ったとき、天井までうず高く積まれた古チラシの山に驚いた。配達を初めて30年、漢字の練習を毎日欠かさずしているのだという。食事中に箸さえ何度も落とす手で、チラシの裏に漢字を書き続けてきたのか…。

受験まであと数日に迫った頃、帰宅するとコタツの上に民族衣装をまとった愛らしい人形がのっていた。台の裏に、震えるような筆跡で、「敏子ががんばれ、合格」と記されている。伯父の字だ。部屋を見回すと、私の名で真っ黒になったチラシが隅にきちんと積んであつた。

時が経ち、70歳を過ぎてても伯父は相変わらず、配達のかたわら漢字の練習を続け、ある冬の朝、路上で倒れ帰らぬ人となつた。

今でも辛いときは、古チラシと人形を思う。人知れぬ努力を積み重ねた伯父の生き様こそ、私に勇気を与えてくれる贈りものなのだ。

この話は、宮城県にお住まいの方の実話です。誰かのために生きることがこんなにも人を勇気づけるものなのか…。ぜひお伝えしたくて掲載した次第です☺

卒業式練習見学・体験会の実施！

全校で祝う卒業式が出来なくなり2年目。何とかあの緊張感に溢れた厳粛な雰囲気在校生にも味わわせたい。また、卒業生及び式に参加する5年生の真剣な姿勢を学ばせたい。そんな想いで、4年生以下の卒業式練習見学・体験会を実施しました。「儀式で鍛える」という神埼市の教育理念の実践も意識した取組で、互いにメリットがあり、卒業生にもいつも以上の張りがあつたように見受けられました。卒業式まであと3日。式には参加できない全ての下級生も、自宅学習をしながら、卒業式の様子を思い浮かべられるような時間がもてたかな！



☺無事に卒業式が開催できますように！

